

ニュース・パトロール

農業講座から立ち上がった主婦達

和気郡佐伯町

昨年度1ヶ年間、和気郡佐伯町は農家の主婦を対象に毎月1回の農業講座を開いたが、農業への自信を深めた主婦達は、町の助成を得て受け身の三チャン農業から脱出し、積極的な農業の担い手になろうと活動を開始した。町の助成種目は、水稻、養鶏、養豚、栗、梅、野菜、たばこの7種で、モデル地区には融資し、3ヶ年間その利子を町が負担、また施設には補助金を出すことにしている。

現在、同町父井原には農家10戸が協業で肥育豚200頭、繁殖豚5頭を一単位として2組の協業体が発足する準備を進め、敷地1haはすでに造成を終わっている。また同町土田区地では50人が一団体となって2haの梅の新植をし、3年後には7haにまで増殖する計画を進めている。

町ではこうした農業教室の成果に意を強め、更に40年度も農業教室を開設することにしている。

(山陽新聞 4月27日)

窓なし鶏舎実用化へ

県養鶏試験場で好成績

県養鶏試験場は、自然光線なしで鶏を飼うウインドレス(無窓)鶏舎の研究をしていたが、このほどまとめたデータでは、産卵、孵化、授精率など一般飼育の場合と変わらないことがわかり、ウインドレス鶏舎の実用化に目途がついた。

同鶏舎の特徴は(1)鶏舎に窓を付けず、日光を全く遮断し、その代り点灯する。(2)点灯も鶏の産卵の度合により光線調節して産卵率を高める。(3)密閉するため、空気の取り入れ口と換気ファンを付け、室内の空気を浄化する一などである。

同試験場では、一昨年夏に採卵用鶏のケージ飼い、昨年冬に種鶏用の平飼いによる試験をしたが、その時試験鶏の産卵率は72.6%で対象飼育の79.1%をやや下回ったが、これは試験中呼吸器病の発生があり、産卵が一時低下したことによる。また、試験鶏の卵の授精率は90.5%、孵化率は82.7%と、それぞれ対象飼育よりも高い率を示し、卵重量にも相違はなかった。

このように自然光線を入れなくても飼育管理に影響がないことが証明されたわけであるが、室内の湿度が高いために病気の発生を招き易いため、今後換気設備の改良、敷料の改善などに検討の余地が残されている。

(山陽新聞 4月24日)

県経済連7月から鶏卵価格補償再発足

岡山県経済連は、昨年12月で中止していた「鶏卵価格安定共助制度」の運営について4月22日、関係者を集めて協議した結果、昨年12月分と今年1、2、3月分は補償をせず4、5、6月分は今迄通りの補償基準価格で補償、7月からは全販連のバックアップを得て再発足することになった。

同制度は系統農協を結束して昨年10月発足、しかし、補償基準価格も大幅の低卵価続きで僅か10、11の2ヵ月間で1千万円の基金を食いつぶし、事実上廃止された形になっていた。このように早く危機に立った理由は①補償価格の設定基準(平均kg173円)が甘く、払い出し額が予想以上にのぼった、②側面からの財政援助が全くなかった、ことによる。

同連の計画によると出荷者から今迄通りkg1円の拠出金を取り、全販連で管理する。対象ワクも広げ、常時百羽以上飼育農家であればよい。補償は全販連が年間補償価格kg160円までを全額補償、平均価格が165円を切った場合は同連が独自で差額の半分を補償する。

(山陽新聞 4月23日)

成果をあげた協業経営

御津町吉尾共同養鶏場

協業によって、進歩的企業養鶏を立派に成り立たせ、今後、第4回県農林漁業近代化表彰において畜産の部で表彰されたグループがある。御津郡御津町吉尾で吉尾共同養鶏場を経営する同所金光輝夫さん(40)、山田俊夫さん(36)、大内修一さん(28)の3人である。

36年8月、農業近代化資金を借りて5人で始めた協業経営であるが、初期は赤字、設備・生産投資の増加に苦しみながらも、ついに経営を軌道にのせてきた。

現在は、鶏糞にヌカ、フスマ等を混ぜ、酵母を入

岡山畜産便り 1965.04・05

れて醗酵、蒸気殺菌する飼料還元機（50万円）を購入、飼料代の半減をねらっているほか、産卵率の高いハイライン、シェーバー等の外国鶏を導入して経営の合理化を進めている。

この協業経営が町内の農家を刺激し、昨年からは吉尾、伊田、中泉の3地区で農業構造改善事業が始められて、水田の区画整理とブドウ温室団地が建設され、また養豚の協業経営を実施する農家も出るなど、地域農家のリーダーとしての役割を果たしている。

（山陽新聞 4月19日）

県和牛センター設立

岡山県は県下の種雄牛を1ヵ所に集めて飼育、種付けする和牛センター建設を決めていたが、5月初めから設計にかかり11月末には完成する予定である。

同センターは、本館、畜舎、農具舎、堆肥舎、精液処理室、実験室などのほか付属建物、それに採草地80haが作られる。完成後は新見市千屋の和牛センターを吸収、精液採取、精液検査、飼育管理、人工授精、和牛改良、飼料の栽培等に当り、将来は種牛の改良試験、研究をする。このため県下各地に分散飼育中の種雄牛を同センターで集中管理し、適正な補充更新と省力による飼育管理を行うことで家畜の性能を高め、精液の高度活用を図るのがねらいである。

（山陽新聞 4月15日）

農業構造改善事業不徹底

中四国農政局管内

37年度から始まった農業構造改善事業は39年度で、第一期の終了を迎えた。これら事業達成状況を見ると準備期間がなく、総事業費は当初計画がいずれも確定しないままスタートし、地元の理解不足もあって達成率はかなり計画を下回った。

畜産では、全体の44%の地域が取り入れており、なかでも酪農はブームを反映してトップ。養鶏がこれに次ぎ、和牛が3ヵ所。酪農は甘いムードでスタートしたものが多く、協業経営に対する不慣れや警戒ムードで共同畜舎は約半数が計画をとりやめ、実施したところもほとんど資金不足等で足踏み状態。養鶏は回転率が早いめほとんどが計画通り完成、しかし卵価安などで問題は今後に残されている。和牛は水稻との組み合わせで山間部が多く、全般に達成率は悪い。

（日経新聞 4月7日）

多頭羽化の傾向に

中、四国の農業白書

中、四国農政局は、管内の農業の実状をつかむことと、農林省の農業報告で足りない地方の事情を補うことをねらいとした、39年度の農業白書を発表した。

白書によれば、農業生産は39年にはほぼこれまでの伸びの水準まで回復したと見られ、作物別では、果樹は桃の減退、ぶどう、日本なしの伸び悩みがあるが、みかんの新植が盛んである。野菜は不時栽培を中心に急増、畜産では和牛の急減に対し、乳牛、豚、鶏は多頭羽化の傾向にある。また、労働生産性は1人当たり9万9千円で、全国平均の76%しかなく全国最低である。これは中・四国では1人当たりの耕地面積が39a（全国54a）と最低で零細性が強く、急傾斜地が多いためと考えられる。

また、工業化の影響で農業労働力の流出が著しく、第二種兼業の増加が目立つ。新産都市、工業地域の誕生で農地転用は盛んだが、全国的な傾向とは逆に農地間の権利移動は近年減少の傾向にあり、売買移動が経営拡大と結びついていない。

（日経新聞 4月1日）

外国びなは3.5倍に

岡山県の39年産秋びな（7～12月）の人工孵化羽数は、631万5,800羽で前年同月期比6%減だったが、このうち外国びなは前年同期の3.5倍の187万9200羽に伸びて総羽数の29.8%を占めている。

発生羽数が減少したのは、昨年4月ごろからの鶏卵暴落でひなの予約や生産が手びかえられたのが主な原因。

昨年まで1位だった白レグが前年比43.7%減産し、純血種、一代雑種も前者で前年比41.9%、後者で32.1%減産、こうした中でニューハンプシャー、ロードホーンの2種だけが伸びている。

（日経新聞 3月30日）

協業経営の指導方針

県農業経営指導協会

岡山県下の農業協業経営体の指導に当たっている県農業経営指導協会は、3月25日、40年度の事業計画を発表した。それによると新年度は特に経営困難に陥っている協業体のための、再建整備促進運動を最

岡山畜産便り 1965.04・05

重点事業として、関係機関と協力をして技術・経理面などから指導してゆくもの。

同協会では、前年度から引き続いて特別指導地区巡回指導、経営相談所、現地研究会の開催も行い協業経営の健全化につとめて行く方針である。

(山陽新聞 3月26日)

中央の動き

原乳57円 豚肉310円

40年度畜産物安定価格

昭和40年度の畜産物安定価格は、政府と自民党で折衝した結果、原料乳安定基準価格は1.875kg当り57円(現行より2円高)、豚肉安定基準価格は枝肉1kg当り310円(東日本水準……現行より20円高)としまり4月1日告示された。

(農業新聞 4月5日)

農林省 鶏卵の調整保管

農林省は4月16日、低迷を続ける鶏卵の価格安定対策として、全販連など生産者団体による調整保管を実施させるため、畜産物価格安定法に基づいて生産者団体販売所、及び販売所所在地の国鉄駅渡しの価格で基準価格(kg)160円、期間は4月16日から7月末までに保管した鶏卵で保管開始の日から3ヵ月間とすることを決め、同日告示した。

基準価格で調整保管した分については、畜産振興事業団が金利、倉庫代を補助する。

(山陽新聞 4月10日)

目立つ子豚の増産

農林省豚飼養の動向

このところ豚肉の市況は軟化しているが、出回り量はあい変わらず多い。

4月にはいって生まれる子豚は昨年同期とトントンないしわずかに減る見込みだが、これが市場に出るのは秋10月ごろになる。このように子豚生産が昨年を上回っているのは、昨年の市況が堅調だったことのほか、37年春の暴落による飼養頭数の減少でめす豚の大巾減少から立ち直り、38、9年に導入のめす豚が、どんどん子を産んだのが原因。

需要はこれから上向き、6、7月の中元時に1つのピークを迎えるが、その時期から10月にはいる頃

までは、出回り量が昨年を上回るとみなくてはならない。

こうした子豚生産の傾向がこの先どう変わるかは、今後の相場しだい。昨年末以来の値下がり傾向が今後も続くようだと生産意欲の低下—種付けの制限—出回り減となるのが毎度お決まりのコースだ。

もっとも今年は畜産物価格安定法による基準価格が皮はぎ法の場合、kg310円と20円引き上げられたせいもあって、関係者の多くは、相場はそう大巾には下がらず、秋以降の出回りも比較的順調だとみている。

(日経新聞 4月13日)

全販連と荷受会社対立!!

鶏卵規格取り引き

懸案の鶏卵規格取り引きがいよいよ5月1日から本格的に実施されることになった。自主規格取り引きなので、いままでの産地銘柄別の取り引きは当然残り、初めは先進県中心の小規模なものになりそうだが、とにかく軌道にのってきたことは確かであるが、取り引き価格の公表の仕方をめぐって、全販連と荷受け会社との間に意見のくい違いが生じている。

一つは、公表の際、種類、等級をどうするかということ。

もう一つは、価格の公表の仕方だが、規格取り引きの実施は、すでに後もどりはないとみており、小規模でも実施にはいるとみている。

(日経新聞 4月24日)

地方の動き

因伯牛を肉用牛に5カ年計画で改良

因伯牛はこれまで役肉兼用として生産されてきたが、最近肉用に限られてきたため、鳥取県では、肉用タイプに改良するため40年度から5ヶ年計画で優良肉用種牛の造成事業に取り組むことになった。

40年度は、県下優良雌牛のうちから肉用タイプのものを300頭厳選、同様に種雄牛として5、6頭を指定、これらを計画的に交配し、産れた子牛を更に淘汰し、優良なものは県外に売らずに指定牛として県内に残し、引き続いて計画的に交配、県下に普及する。

(日経新聞 3月4日)

岡山畜産便り 1965.04・05

経営安定資金を新設 千葉県で県単独事業として

千葉県では農業近代化資金を補うものとして、県単独事業で経営安定資金を新設し、協業経営を中心に貸し付けることにした。これは、運転資金の不足から協業体の解散が目立ち、近代化資金のこげつきが出るのを防ぐため、近代化資金の対象外である運転資金を県が融資するもので、限度は1件当たり500万円、利子は近代化資金並み、4年間据え置きとしている。

(日経新聞 3月9日)

大山山ろくの草地改良進む 鳥取県41年度までに500頭放牧

畜産農家の経営拡大と地域開発をめざす鳥取県大山山ろくの大規模草地改良事業は、新年度から計画2年目に入り、溝口、江府両町にわたって新たに40haが造成される。この大規模草地は中国地方では、岡山県蒜山地域に次いで広島県芸北地域とともに39年度から着工、2ヵ年計画で41年度に完成させるものである。

すでに江府、溝口地区の一部で26haの草地が完成、4月下旬から放牧できる体制を整えているが、完成すれば156haの大草地を造成する計画であり、これによって乳牛、和牛合わせて約500頭の放牧が可能で、地元の利用農家は1戸当たり平均飼養頭数を2頭から4頭に増やすことができ、零細経営からの脱却、労力の節減、飼料コストの低下など、大きな効果が期待されている。

(日経新聞 3月19日)

ひな1千羽ソ連へ輸出 ホワイトロック原原種

鳥取湖山の山陰種鶏場は3月30日、ソ連へホワイトロックの原原種ひな1千羽を出荷した。これはウクライナのソホーズへ伊丹から空輸されるもので、本年分の契約6,000羽の第一次である。

同種鶏場は昨年秋、ソ連、ブルガリアなどに試験的に輸出したが、現地で予想以上に好評を呼び、大量注文が殺到したものの生産が追いつかず、とりあえず本年分は6千羽の契約となった。

不振の国内種鶏場に活を入れるものとして、同種鶏場は今後同種の生産輸出に力を入れる方針である。

(日経新聞 3月31日)

高すぎる飼料費 鳥取 乳牛1頭赤字2万円

農林省鳥取統計調査事務所が18農家を選び、このほどまとめた資料によれば、昨年の乳牛1頭当りの搾乳量は4,063kg(3.2%脂肪)、生乳売り上げ金127,119円、これに要した生産費は146,379円で差し引き19,260円の赤字。副産物として乳牛使役、厩肥の見積り、子牛代金など計22,930円を含めてどうやらトントンという状態である。

費用のうち最高は飼料費で86,918円となっている。しかも飼料の自給率が53.8%と低いことに問題があり、また労働時間でも、1年間1頭当りに要した全作業時間が540時間もあり、飼料の調理給与、搾乳、処理に366時間かけているところに合理化の余地が残されている。

(日経新聞 4月7日)

高値呼ぶ無角和牛の子牛

山口県特産の無角和牛の子牛相場がこのところ高値を呼んでいる。山口県経済連の阿武郡徳佐、奈古、須佐と萩家畜市場の3月中の平均価格はメス56,600円(最高86,000円)、オス58,300円(同79,000円)と昨年末に比べ9,000円高。黒毛和種よりも1万円前後の高値をつけている。この原因について県畜産課では「県の生産高が38年当時に比べ3割方減っているため、肉牛全体に市況は堅調だ。特に無角は黒毛に比べて体重も重く改めて見直された」といっている。

(日経新聞 4月7日)

飼育農家減り多頭化へ 広島県の酪農

広島県酪農会議が40年度産生乳出荷計画のために取りまとめたところによると、今年2月1日現在の広島県の牛乳出荷は昨年の4月に比べて1割減、従って飼育頭数も減少しているが、反面飼育農家も減り、1戸当りの飼育頭数は増加している。

昨年4月の酪農家数6,600戸だったものが、本年は5,048戸と752戸減り、一方乳牛は17,759頭いたものが177頭減って17,582頭となった。これを1戸当りの飼育頭数で見ると、昨年2.7頭であったものが、今年は3頭と多頭化への動きをみせている。

(農業新聞 4月19日)

岡山畜産便り 1965.04・05

ランドレース母体に雑種つくり 静岡県養豚試に実験

ランドレースの導入が進んで、日本の養豚も欧米なみに、やっと雑種時代に入っている。しかし今までのいき方はほとんどが、在来種のヨークシャー、バークシャーを母体にし、これにランドレースをかけたものだが、静岡県養豚試験場は39年度、これを逆にし、ランドレースを母体にした雑種をつくったところ、有効産子数、育成率とも、在来種母体のものよりすぐれていることがわかり、雑種養豚も第二段階にはいっていることを示している。

バークシャーをかけたものは特にいいようだ。まだ例数が少なく最後の詰めが残されているが、ランドレースの数が多くなっているだけに、興味ある動きといえよう。

(日経新聞 4月23日)

子豚供給のための有限会社 神奈川県で近く設立

養豚経営の発展は、子豚供給がうまくいくかどうかにか大きくかかっているが、神奈川県養豚協会に加盟している専門的な養豚家は、こんど種豚センターを作り子豚の自給自足をはかろうとしている。

県下の養豚業者は、いままで年間10万頭の子豚を県内や群馬、茨城、愛知、静岡など県外の副業農家からまかなってきたが、伝染病の発生と価格変動に悩まされる例が多かった。そこでこの計画が生れ、出資金1千万円で有限会社をつくり、8月には17,000㎡の敷地にセンター設立を開始する。

この施設は米国式の新技术を取り入れ能率的経営をはかろうとしており注目されている。

設備は繁殖、飼育方法として、まず交配は雌雄混飼による自然交配、また分娩室にはヒーターによる室内保温および換気装置、赤外線による子豚の保温、殺菌灯による抗病装置、自動給餌器の設備等新しい設備、方法をとっている。

(日経新聞 4月23日)

秋田で山腹畜産を振興

秋田県では今年度から山腹畜産の振興に本腰を入れることになり、40年度は2億円を投じて560haの草地と5つの団地を造成する。

事業は、「財団法人秋田県草地開発公社」を設立し、

同公社で草地の開発、造成、管理等に要する農家の労力を肩代わりしてこれを行うことにしており、技術職員21名、トラクター14台を常備している。さらに今春開校した県立高等農業学園と、農業大学の生徒を動員して作業を進める予定である。

(日経新聞 4月28日)

岡山に3千万円 開拓営農振興資金一次分

中、四国農政局は4月28日、40年度の開拓営農振興対策資金の第一次県別割り当て額を内示した。政府では今年度に50億円を予算化しておりその第一次分として中、四国農政局に2億4千万円のワクが示されたので、これを配分したものである。

この資金制度は昭和38年度から始められたものであり、開拓農家の作った振興計画で、県知事が認定したのものについて家畜、農機具、農用施設などの購入資金は5年据え置き、15年償還、年利4分で貸し付けるものである。知事認定の翌年度から3ヵ年間融資する仕組みとなっているので、今回の貸し付け対象は38、39年度に認定した約2,300戸の中から各県が選ぶことになっている。

(日経新聞 4月29日)

センターつくり子豚の供給 愛媛県宇和町農協

愛媛県宇和郡宇和町農協では子豚センターの建設を急いでいる。これは地区の養豚農家の子豚の自給自足と品質向上を図るためのもので、当初は県外から純粋ランドレースを2、30頭導入する予定である。

今後は100頭前後の種豚の飼育、年間1,500頭の子豚を地区内に供給する計画である。

(農業新聞 4月30日)